

会 議 録

会議の名称	第19回西東京市男女平等参画推進委員会会議録
開催日時	平成15年10月16日 午後18時00分から22時00分まで
開催場所	西東京市民会館
出席者	(委員)堀口委員、加藤委員、神島委員、赤石委員、石井委員、岩西委員、栗原委員、高橋委員、角田委員、中村委員、西山委員、淵脇委員 (欠席者)今城委員、田口委員、名古屋委員 (事務局)佐藤主幹、菅沼主事、インテージ1名
議 題	(1) 男女平等参画推進計画素案総論について (2) 男女平等参画推進計画素案各論パート1について (3) その他
会議資料	・第18回西東京市男女平等参画推進委員会会議録
会議内容	発言者の発言内容ごとの要点記録
発言者名	発 言 内 容
委員長	まず、事務局からの報告や議事録に関しては、もう少し委員の方がお集まりになってからということにします。今日の議題の2番目にあります「男女平等推進計画素案総論について」から。前回、庁内委員会の委員の方々からさまざまなご意見が出ました。資料19-5を見ていただきますと、どうのご意見が出たかがお分かりになるかと思えます。前回の総論編について、出ましたご意見を入れるか、あるいはこのままでいくかということについて皆さんのご意見を諮っていきたいと思えます。
委員	計画策定の意義のところ、前回、他の委員の発言にもあったが、まるで少子高齢化のために男女平等の計画を立てなければいけないみたいに捉えられるとか、また庁内委員会の委員の方も同時におっしゃっている、むしろ人権の問題であるということを持て来て、具体的には日本国憲法を持って来ればいいのかというふうにする。
委員	やはり男女平等推進計画を何のために作るのかというところが、やはり人権をちゃんと持って来ないと本当にボケちゃう。庁内委員会からご指摘されたことはご尤もだと私は納得している、やはり1段落目と2段落目を逆に文章を作り直していただきたい。
委員	本当に私もそういうふうにしたほうが良いと思えます。もちろん、いろいろな配慮ということも分るんですけども、力強い援軍もあったことで入れ替えたかどうか。
委員長	具体的には1段落目と2段落目を入れ替える構成にするということによろしいでしょうか。では、時間もないので4ページ目に進ませていただきます。
委員	下から7行目あたりに(ジェンダーの問題)と書かれていて、一番下にも「ジェンダー平等の実現」というのが書かれているんですけども、ジェンダーの問題というのは「男女の問題」ということですか。それと「ジェンダー平等」とはどういうことかということ、もしジェンダーという表現を使うのであれば定義を入れたほうがよいのではないかと。
委員長	では、ジェンダーという言葉に関して注を下に入れていただくという方向でいくということを確認しました。それでは5ページ目に関してはいかがでしょうか。
委員	こういう表現というのはすごく紛らわしくて、子どもが突然こんなところに出て来て、特別入れる必要がなければいけないのではないかと。

委員長	文章作成の意図としては、これまでの計画が主に女性・子ども対象といういわゆる「女・子ども」というのを一括りにしてやっていたという政策を転換したんだという意味で、かえってここを強調しているのかなと理解したが。
委員	例えば書かれた意図はそうだとは思ったんですけど、ここの中に書いてあるとすごく紛らわしいので、ここには入れないほうがいいと思うんです。
委員長	分りました。そうすると具体的な方向性としては、このへんの文章は取ってしまうということですか。他の委員の方はどうでしょうか。
委員	やはり弱者ということで、「女・子ども」ということが出ているんだろうと思うんですけども、女性は男女平等のほうで引き上げられているけど、子どもはどうなっちゃったのというふうな、排除されたような形にも受け取られかねないので、やはりこのところは要らないかなと。
委員	ここで言いたいことは、男女施策の対象として社会システムや制度・慣行を視野に入れるというそっちに趣を置いて、「だから今までと転換したんだ」というところを強調したいんですよね。1900 何年でしたか、子どもの権利条約ができたという流れもあったわけですよね、その背景には、そうすると、そういうことまで説明するのはここでは適切でないとすれば削除していいのかと思ったわけです。
委員長	では、「この計画は～」の3行は削除する方向にということではよろしいでしょうか。では、5ページに関してはよろしいでしょうか。それでは6ページですけども、「東京都の動き」と「西東京市の状況」で、東京都の動きに関してはご意見がなかったように記憶しているのですが、西東京市の状況に関しては、やはりさすが庁内委員会の方々ですので、かなりいろいろとご意見が出て来ました。
委員	庁内委員会のおっしゃったようなことは、だいたい私もそう思っていたのですが、出てきたのがこうかなと。やはり今まで行政で築いてきたものの上に立って西東京市というものがあるわけだから、そのへんをしっかりと書いて、その中でこの市になってから3年間なかったものを今回初めて市民参加で作ったんだというもので、アンケートをとって市民の意向を尊重しながら市民の意見を聞きながら計画を作ることになったというような文章にしたほうが、西東京市の状況としてはいいような気がするんですが。
委員長	すみません、もうちょっと具体的にお願いします。
委員	両市でそれぞれ市民参加で提言をしながら行動計画を作ってきて、それに基づいて事業を進めてきたわけですよね。新市になった時にはそれが行動計画としては外されているわけですよね。だから、新市になって新たに作ろうということになって、それにはやはり市民に関する意識調査をするということで意識調査をして、それに基づいて市民参加で私たちの委員会が行動計画を作っていますというか、そういうようなところで書いた、その中にアンケートの中からピックアップして、西東京市の特出すべきものがあれば後ろのところに「調査した結果、こういうような特徴があった」というようなところを付ければ、今の西東京市の状況というのがわりにはっきり分る気がするんですが。
委員	意見交換会において市の方針で旧市のことには踏み込まないという話があったんですが、意見交換会メモを読んで見ても踏み込まないのか踏み込んでもいいのかははっきりしないんですが。
事務局	もう一度企画のほうに確認しました。そうしたら、「踏み込んではいけない、書いてはいけないということは一切ございません」と。ただ、合併して新し

委員	<p>いものを作っていくうえで、あまり極端に「旧何々市はこうだった」と対比させると、やはり融合を図っていくという観点からして好ましくないだろうということで、さらりと流す程度ならよろしいのではないかなというような話が企画課からありました。</p>
委員	<p>実際、今、情報誌を作ってフォーラムをやっていますよね。予算的に見ても、情報誌については旧田無市の予算額を載せ、フォーラムについては保谷市が予算化していたものを計上したという経過があるので、現実には旧市があって、それで新市になってこういう事業を続けているわけで、新市になって初めてフォーラムと情報誌を誰かが提案して作ったということではないのだから、「書いてはいけない」ということが私にはとって理解できなかったんですけど……。書けるところはしっかり書いて評価して、それで新市になってそのうえに立ってどうしていくのか、というところを行動計画に書いていけばいいのではないかなという気がしていますが。</p>
委員長	<p>やはり昨日今日、男女平等問題が国からのお達しなり都からあって動き出したというよりも、実際に以前旧市で、レベルの度合いはどうだったのか不勉強でよく分らないんですけどもやっていたことは事実で、そういうことに対して両市が合併した西東京市、旧田無市なり旧保谷市なりが意識的なものを持っていたということは、かえって誇るべきだと思うんです。</p>
委員	<p>ではバランスよく、ちょっと微妙な問題はあまり具体的に細かく書くことができないかもしれませんので、そのへんに配慮を入れて、しかしいきなり出てきた動きではなくて、ずっとやってきたこともあるというので、そういう方向性でこの文章をまた直していただくという方向でよろしいでしょうか。</p> <p>3行目から5行目までの「子育て世代の転入者も多く」というところなんですけど、これは各論のところでは「家庭生活を豊かにする男女平等」というのがありまして、そこで「西東京市では……」で西東京市の地域の特性のようなことが書かれているんですけども、国の基本法の9条下で「地域の特性に応じた施策を策定することが地方公共団体の責務である」というふうに謳われていることもあって、ぜひともこういった西東京市の状況というものをうまいこと書きたいと思うんですけども、今申し上げたこの上段に書かれている西東京市の状況と「家庭生活を豊かにする男女平等」に書かれている西東京市の状況では、いく分矛盾があるように感じられた。というのは、総論のほうでは「仕事と子育ての課題に直面している」ということで、両立とまでは言い切れないんですけども、西東京市の各論のほうに書かれている「一旦仕事を辞めて育児に専念」というふうに書かれていまして、ちょっとニュアンスが違うので、市民の実態の意識のアンケートでは「中断再就職型」が多数を西東京市では占めていましたので、むしろ各論のほうの「育児のために一旦仕事を辞める女性も多く」のほうを持ってきたほうが総論に持ってきて、各論のほうではここでは触れていない「高齢者人口の増加が進み、介護に関する課題も増大しています」というふうに流して、それで西東京市の特性としては中断再就職型プラス高齢者人口の増加がより高齢社会になっていくということですので、初めに申し上げた基本法で謳われている「地域の特性に応じた施策」として、この2つに重点を置いていくというように触れたほうがよいと思いました。</p>
委員	<p>ダイジェストに触れる時に、育児のために一旦仕事を辞める女性が多いということが、わりとダイジェストにここに入れられるのであれば、それは特徴の1つだと私は本当に思っていますので、どういう表現があるか提案していただくともうちょっとスムーズに流れるかなというふうには思います。</p>

委員	仕事をとるか、子育てをとるかという問題が。
委員 委員	<p>あまり長く展開しないと、どこまで書いたらよいか。</p> <p>私は少し長く展開しても差し支えないと思うんですけど、前回、意義のところで西東京市の独自性にはそれほど触れないでよいと。何故なら後のほうで西東京市の状況が書かれているからだということでしたので。また、自分の考えもそうですし、庁内委員のほうからも指摘されているようなので、特に庁内委員では介護のこととかも問題にしつつ、たぶん西東京市の状況というのはかなり興味がわりと関心を持ってもらえる場だと思うので、もう少し分りやすく詳しく書いたほうが良いという意見もありまして、私個人としては「具体的にどう変える」というふうに言われると、「西東京市は子育て世代の転入者が多く」というこれは良いとして、それで各論のほうでは人口の流動が多くと書かれていたのと同じことですので、「育児や介護など地域社会で支え合うことが困難な状況にあります」とすぐにあるんですけども、その各論のほうの「育児のために一旦仕事を辞める女性も多く」というようなものを入れて、介護の問題も難しいですけどもそれも詳しく入れて、西東京市の独自性あるいは特性として書いたほうが、各論に結びつきやすいのではないかとこのように考えました。</p>
委員長	<p>仕事と子育ての課題に直面しているという部分をもう少し具体性というか、西東京市の状況としてもう少し書き込んだほうが良いというご意見のように伺ったんですけども。分量的にはこの倍くらいにはなるという感じでしょうか。</p>
委員	<p>全国的なところと比べてデータ的に見るのか、近隣市との比べてみるのかによって特徴をどのように捉えるかということは全然違ってくるんですけど、西東京市の特徴としては、流動が激しいということが私は一番の特徴だと思うんですよ。子育て世代が入って来ても何年か経つとまた他市へ出てしまうと。そういう中で地域での子育てが難しくなっているというところがあるんですね。</p>
委員	<p>育児や介護などを地域で支え合うことが、人口の流動が多く困難な状況にあるわけですね。ですので、そういったことを含めて、むしろ各論に書かれているものを重点的にやったほうが良いような気がしています。</p> <p>「仕事と子育ての課題」というのをどれくらいの大きさに捉えれば良いか、そこに全部含めてしまうかということもあるんですが、中断再就職型が多いということを考えれば、いく分矛盾があるのではないかと思います。私としては各論の「家庭生活を豊かにする男女平等」に書かれているほうが、むしろ地域の特性としてより具体的になっていて総論の西東京市の状況のところにいれた方がよいのではないかと思います。</p>
委員長	<p>直面している課題をもうちょっと具体的に書き込んだほうがよい、というご意見のように私は受け取っているんですが、それとは違うんですか。</p>
委員	<p>各論の上から4行を総論のほうに持ってきた方がよいと思う。ただ、それだけだと高齢者のことには触れられないので、高齢者のほうもしっかり触れて、それを地域の特性として捉えて施策を作っていくというほうがよい。</p>

委員	<p>量としては、もう少し膨らませたほうが市民には説得力はあるのではないかと いう気はします。この4行ではちょっと乱暴かなど。 私は、「高齢者人口の増加が進み」というのが西東京の特徴といえるのかと いう、そこがちょっと私には読めないんですけど。田無は知らないんですけ ど保谷の場合は老人ホームが大変多かったものですから、他市から老人ホー ムに入るために転入という場合が結構あるんです。だから、本当にずっと住 んでいて高齢者人口が増えて来たということとちょっと違うので、それを特 徴として書くかどうか。高齢者人口の増加というのは全国的な流れと同じ で、ここだけが長生きするということではないと思うんですよね。</p>
委員	<p>実際に転入して来る人たちはどういう人たちが主として多いんでしょうか。 やはり子育て世代の人たちが入って来るのですか。転入が多いということだ ですけど、移動がなくて入りっぱなしなのかということも含めてと、もともと 1戸建ての都営住宅が多かったですね。そこに何十年も住んでいる方々 が、高い高層のマンション化した所にそのまま住んでいる方も結構多いの で、確かにそのままその人たちが歳を重ねていって高齢になっている人た ちが多いのか、それとも高齢者の方々が確かに転入しているのかどうかとい うことも、どのような状況なのかということが分らないと、やはり「西東京市 としては……」とは謳えないのではないかなと思うんですけれども。</p>
事務局	<p>高齢者人口については全国的な傾向で緩やかな増加を描いていると。ただ、少 子化とよく言われますけれども、西東京市の場合は少子化という傾向はほと んどなく、どちらかと言うと若干増える傾向だと言うんですね。</p>
委員	<p>ただ、そういう状況を飛び越えて、意識調査の中から特徴を拾って書いたほ うがすっきりするかなという気はしたんですけど、どうですかね。</p>
委員	<p>両委員に共通しているのは、より丁寧に書くということですよ。それに対 しては基本的には私も賛成でして、そのために転入・転出届のデータがある のであれば、それも踏まえ、プラス折角アンケートもしているので、それも 西東京市の特徴として使えるようであれば、それも踏まえた方向性に持って いったほうがよいのではないかと思います。</p>
委員長	<p>もう1つの問題としては、ここに入れる調査結果のグラフなんですけれど も、これに関しても前回、「なんでこれを入れるのか」というご指摘が出て いたと思われるのですが、これに関してはどうでしょうか。</p>
委員	<p>これ結局、最後の文章を受けて入っているんですよ。 庁内委員の方が私に言われていたことは、その前の時に使われたデータの件 だったんじゃないかと思ったんですけど。</p>
委員長	<p>今度は7ページに関して。意見がいくつか出されておりました、特に2の「計 画の基本的立場」という表現を変えたほうがよいのではないかとのご意見 が出ました。それから2番目の白丸に関して、「男性とは異なる諸問題」と いうところは、もうちょっと表現が分かりやすく趣旨が明確な表現のほうがよ いのではないかとのご意見が出ていたと思いますが、これに関してはいかが でしょうか。</p>
委員	<p>私は、「視点」というよりも下の3つの文を読むと「立場」のように取れま すので、別段「立場」でいいかと思うんですけれども。それと共に庁内委 員が指摘した「全ての男女を対象とした施策とします」と言っているにも関 わらず、女性にしか支援をしないかは、おかしいというのは、しごく全うな</p>

委員	意見だと思しますので、もう少しのところで「男性のためにもなるんだ」というような趣旨の文があればいいのかなと思いました。
事務局 委員	私は、本当は「計画の基本的な視点」というのできっちり入れたいと思うんですが、この内容では「視点」にはならないんですね。全然、内容が違いますよね。だから、これを活かすとしたら「立場」ということになるんでしょうけど、「立場」ということを行政はどう捉えるんですか。
委員	「視点」と同じ。そういう立場にたってみるということでしょうね。ここで書いてある3つというのは、まだこれを読む時の「注意書き」のような感じがします。まだまだそういう状況になっていないからこういう必要があるんですと。
委員長	特に2番目とかは言い訳がましいような気がするんですね。「必要だからこうやっていきたいんです」というような打ち出し方のほうがいいと思います。
委員	「基本的立場」に関してはもう少し積極的な、守りに入らない姿勢で書き直していただくという方向性でよろしいでしょうか。
委員長	パッと見た時に「基本理念」と「基本的立場」の2つは重複しているような気がします。
委員	「基本的立場」の部分を書き直していただくということでもよろしいでしょうか。では、8ページに関してなんですけれども、これに関してもうちょっと積極的な姿勢ということと、それから「市民の側の行動計画でもある」という部分も入れたほうがよいのではないかというご意見が、確か出ていたと思うんですけれども、いかがでしょうか。
委員	行政が市民に「こうなさい」という計画では困るので、そこらへんの書き方というのは非常に微妙なところなんですけど、やはり「市民も男女平等を目指して取り組めるような環境作りをなさい」というようなところでの市民の位置付けをすればよいと思ったので、市民自らこの行動計画について「やるのよ」というようなところまでは書きたくないですけど、市民も積極的に男女平等に向けて努力する必要というか、そういうことはちょっと入れてもよいのではないかと思うんですけど。
委員	計画の概要の中のどの部分でそのようなことをおっしゃっているのでしょうか。
委員	「計画の性格」ということです。
委員	(3)の「市民と協働で取り組むことを前提とした計画です」という表現の中身に関する事なのかと思って聞いていたんですけども。前回の時、庁内委員会の方から市民も行動計画を作るというお話があって、もちろん市民の主体的な行動と連動していかなければ実現はしないというのはよく分るんですけど、それを行政側から提示するとか押し付けるというものでもないと思うので、「市民と協働で取り組む」とか「市民の主体的な活動をも協力・支援しながら」とか、そのあたりを膨らませた書き方をすれば、そのような趣旨も含められるのかなという感じがします。
委員	計画の目的について意見があるんですけど、よろしいでしょうか。この書き方ですと、私などは目的というよりむしろ意義の一部を書いているよう思えますので、推進計画ですのどこかに「推進」という言葉と入れたらよいと思います。例えば、ここに書かれている文章を使うのであれば、「～体系化し取りまとめ、その施策を推進することを目的とする」というような表現が必要ではないかと思われます。

委員長	あとご意見が出たのが 10 ページに関してなんですが、この部分に関してはこれから各論部分とも関わり合いますので、各論部分と照らし合わせながらやっていくということでよろしいでしょうか。 それでは事務局のほうからご報告をお願いします。
事務局	今日お配りした資料ですが、一応、確認をお願いしたいと思います。 (配布資料の確認)
委員長 事務局	(資料の説明をする) それから 9 月に議会が終わったわけですが、議会報告をちょっとさせていただきますと、男女平等の件に関しましては 1 件だけ森議員さんのほうから質問が出ました。内容的にはドメスティックバイオレンスについてというような内容が 1 点出ました。シェルターの標準的な考え方について市長の考えを聞きたいということだったものですから、ちょっと市長のほうで答弁をさせていただきます。市長のほうもそれについては非常に深刻な問題だというように捉えております。あと 1 点ですが、現在、パート、パートにつきましては庁内委員会として検討会を持とうということで今月にやろうと思っています。それが終わった段階で、やはりもう 1 回推進委員会の皆さま方と話し合いを持とうということで現在進めておりますので、もう少しお時間をいただきたいと思っております。
委員	シェルターに関してですが、複数市でお金を出し合って設立するというのも具体的に言明されたんですか。
事務局	いえ、それは言っていないです。
委員	では計画の中に入れ込むことは可能ですか。
事務局	民間のシェルターに助成していくことは、総合計画の中に入れると思うので企画のほうに話はしてあります。
委員長	それでは各論のパートのほうを進めていきます。2 ページ目の「学びで身につける男女平等」というところから入っていきたいと思います。
委員	私は、全体の構成についてちょっと意見を出したのと、「学びで身につける男女平等」について、ちょっと丁寧に書き直してみたというのが修正案なんですけれど、ちょっと言葉足らずのところがある文章の中であって、市民が読んでもちょっと分りにくいなところがあったので、言葉を補足しながら全体を書き直してみました。
委員	「男女の地位は平等になっていると思うが」という問いに対してというところはあったほうがいいですね。修正案の 3 行目が「男女差別や……」というのを抜かしていますけど、「男女差別や」というのはやはり入っていたほうがいいのではないのでしょうか。
委員	男女差別という言葉は抜いた意図が何かがあるのであれば、ちょっとお聞きしたいのですけれども。
委員	流れの中でいくと分業意識と習慣・慣習というあたりでまとめたものですから、男女差別という言葉が抜けただけで、入れて文章的に流れればそれでいいと思うんですが。
委員	そうであれば、男女差別というところは、ある意味最初の項目だけ出ていますよね。ですから「今ありますよ」みたいなことを言う意味合いでも入れておいたほうが望ましいのではないかという気がします。
委員	ここの原案と修正案なんですけれども、計画の策定の意義のところと結構重複される部分があって、私が思うのは原案のほうで「男女差別」や「固定的な性別役割分業意識」を並列させているが、この 2 つというのは並列させな

委員長	<p>いほうがよいと考えまして、副委員長の修正案がとてもすんなり流れているように思われたのですが。</p> <p>ただ、案の段階ですので削られる可能性を考えると、入れておくべきことは全て入れておいたほうがいいのかなどという感じもしないでもないんですけど、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>私は、副委員長の修正案のほうに「男女差別」を入れておいて、ここの最初の「平等の調査を聞いて、1割に留まっています。こうした性差別意識を変えていくためには、学校・家庭・地域社会など……」ということがありますが、これは元の部分でも感じたことなんですけど、この「……留まっています」というので切ってしまうと、「学校・家庭・地域社会等あらゆる場所で男女平等の意識づくりを目指す取り組みを進める必要があります」というのを最後に持ってきたほうが落ち着くのではないかというふうに感じます。副委員長の案のこの流れで「男女差別」を残して入れて最後に持っていったほうが、結論としてここの領域の言いたいことが見えるのではないかというふうには感じるんですけど。</p>
委員	<p>特に異論はないんですけども、そうすると「男女差別」というのを原案のとおり「男女差別や固定的な性別役割分業意識や……」というところに入れるというふうに考えていらっしゃるでしょうか？</p>
委員	<p>はい。ここはそのまま、元の前案にあるような形で残して、そして「調査をした結果、不平等になっています」とにかく留まっていますよというのを前段できちんと書いておいて、性別役割分業にとらわれることなくこういうことをするのが大事で、最後に「学校・家庭・地域社会等あらゆる場で意識作りを目指すことが大事だ」というふうに締めると流れるのではないかとちょっと思ったんです。</p>
委員	<p>「学校・家庭・地域社会……」というのを最後に持ってくるという案には私も賛成なんですけれども、「男女差別」というのは、状況もしくは意識ということがどちらもあるかと思うんですけど、それと「固定的な性別役割分業意識」を並列で持ってくるのは総論の意義のところでもそういうふうには書いてないし、私の感じでもちょっと並列で持ってくるというのはおかしい感じがします。</p>
委員	<p>社会の男女の差別というか不平等な状況というのは、「性別役割分業意識」が根強いために残っている部分がかかなりあると私も思っています。しかし今の日本の現状を見ますと、もうちょっとプリミティブというのでしょうか、「女は男より劣っているんだ」「女はヒステリーなのだ」というように、いろいろな言説が剥き出しで出てくるようなところがもう一度復活しているような気がしてまして、「性別役割分業」で変えられる部分と、もうちょっともろに出てくる男女差別の意識というのにもう一度ぶち当たっているような感じがしているんですね。ですので、ここは入っていたほうが私としてはいいとかなり思っています。</p>
委員	<p>私も基本的に同じ意見で、より原始的な男女差別というのがやはりありますし、「男より女は劣っている」というのがやはりありますし、「役割分担意識」というのは、ある意味で「役割分担意識があるから男女差別があってもいいんだ」という根強い原因にはなっているとは思っています。実体としてやはり男女差別というものはあるので、ここは入れたほうがむしろはっきりするのではないかと思います。</p>
委員	<p>特段、入れることに対して悪いと思ってないんですけども、そうしますと、総論の策定の意義のところの文章なんですけど、2段目のところで「固定的な家族像や男女の役割を反映したものが根強く残っています。そのため、未だ</p>

委員	に男女を差別している状況がみられます」というこの文章との整合性がとれないというふうに思うんですが、これは変えないんでしょうか。
委員長	例えば、意義のほうの「そのため」という言葉を変えることによって整合性は取れることになりますね。
委員	今のご意見のようにより広い差別というものが捉えられるように、総論部の文章をもう少し変えるという方向性でよろしいでしょうか。
委員	今あらためてこれを読みますと、「固定的な家族像や男女の役割を反映したものが根強く残っていて、そのため」となっているので、やはりこれはちょっと限定的に男女差別の中身がその役割分業や家族間というところに固定的に捉えられている向きがあって、むしろ総論のほうで「概ね男女が平等になってきました。しかし、未だに男女を差別している現状があります」というふうに受けて、そして「人々の意識の中にも家族像や役割を反映したものが残っています」というような、何らかの形で各論で討議したように変える必要があるのかなと。
委員	結局、意識作りというところだから、「男女差別」ということをここへ入れるというのは、ちょっと違和感があったので外したということでした。
委員長	3ページに関しては総論部にも出てきたこと関連することなのかもしれませんが、施策を3つ打ち出していると。それから、男女平等感ということでこの実態調査の結果を出しているということなんですけれども、これに関してはご意見いかがでしょうか。
委員	「男女平等の意識づくり」の冒頭で、「個々の問題を整理して解決できるための支援を行います」と「さまざまな学習機会を提供し、一人ひとり個々の問題を整理して」と載ってしまっていて、まるで男女平等の問題を理解すれば全ての問題が整理して解決ができるように取れますが、解決できない問題というものもあるものであり、表現を変えた方がよい。
委員	「より多くの人が男女平等について理解をするため」とかいうふうにすると抵抗がないのですが、「男女平等について理解してもらうために」と言うのと、行政が「理解してもらうために何かしてあげますよ」という文体になっているわけですね。だから、私は全体的に文体は変えた方がいいというふうに読み取ったんです。
委員	例えば英訳する時に、主語・述語がはっきりしない文だと英訳するのが難しいですね。これを読んで主語は何かかなと思ってしまうから、そういうのを徹底的に変えとか。
委員長	この文章の書き方、表現を「市民が」とか「人々が」というように主語がはっきりするような 具体的に書かなくても、そういうふうに読めるような文章に書き換えていただくようにするという方向性でいかがでしょうか。 4ページに関しては、2点ほどご指摘があります。
委員	私はまず初めに全体の構成として、今やっている事業を充実するのか、それとも新しい事業を提起しているのか、ということが分かるような取り組みのランクにしたほうがよいと思いました。主な取り組みとして一覧のようにしてしまわないほうがよい。「実施済み」として片付けられないような書き方に。
委員長	一番目のパンフレットの作成に関しては、成人式の時に一緒に作成した男女平等推進のためのパンフレットを配るということですよ。そうするとこういうものは毎年やるということですよ。それから重点目標みたいな この計画は一応5年で見直すんですよ。1年目は何とか、2年目は何とかというふうなことでやるとかもっと具体的に書き込んだほうがいいのではな

委員

いかと私は理解したんですけれども。

今の既存と新規そして重点的というので、以前、資料としていただいた子育て支援計画の計画を見ますと、それぞれ出されている事業がかなり細かく書き込まれていて、ご提案のように1つ1つに「これは既存のもので拡充するもの」というように、今すでにやっているものだけでも拡充して行く方向にあるというのと、「今までないもので新規に取り組む」というものがきちっと分けられて分りやすく書いてあるんですね。非常に細かく「母親学級」「両親学級の充実」「子育て講座の充実」とか、1つ1つ非常に具体的に挙げてあるわけです。しかし、今回出されているものの中には「主な取り組み」なので、これから展開していく中で新規に考える事柄が含まれているのでしようし、既存のもので拡充していくものも含まれていると思うので、非常に幅があると思う。重点的のほうはすごくいいと思うんですね。重点のほうは別の資料でいただいた福祉のほうでは、重点1、重点2、重点3というように「これはもう重点的に取り組んでいく」というのがマークされていて、この計画の中では全部やるんだけど、特に重点的にと。

委員

やはり、どこまで私たちが西東京市に施策としてインパクトを与えられるかという時に、この「主な取り組み」だと「その後もがんばり続けるよ」ということになってしまうんですね。この「主な取り組み」の中のどれを市の中で実際にやってもらえるのかという時に、かなり今度力を入れないと次に動けない可能性が出て来るのかなとどうしても思ってしまうので、もう少し足がかりになるようなもの作りたいという気持ちはあります。

委員

「主な取り組み」にするからいけないので、「具体的な取り組み」にすればいいのでは？

委員

やはり市町村に住んでいても、今、市が何をやっているか知らないと思うんですね。それでこういう計画を見た時に、「これはやってもらいたい」という項目があって、起草が書いてあって担当課が書いてあれば、そこに問い合わせを利用してという意味での参考にもなると思う。「推進と書いてあるけど始まったのでしょうか」とか、一般の市民の人でも、そういう既存と新規という振り分けができたなら有効かなと思うし、使える資料にもなると思います。

委員

市や教育委員会が後援事業をしたり、それから発行する広報やチラシ、特に生活文化課が作るのではない広報やチラシなどで、男女平等参画の視点からずれるものがある場合があると思うんです。そういうときに、やっぱり市が発行するものすべてに男女平等参画の視点というのが入っているのが望ましいけれども、別のところでは「お父さんは何とかで、お母さんは」みたいなのが入っていたり、最近の事例では教育委員会の後援事業で「夫を立てるとアトピーが治る」とか。そういう目配りというのはどういうふうにしたらできるのだろうか、ちょっと思ったんですけれども。

委員

結局これ、市民団体がやっている事業ですね。それに対して行政としては、それはそれぞれの考えがあるからノーとは言えないので。教育委員会の「後援」を付けるということが問題ということですよ。

委員

西東京市内の小学校に子どもを通わせてるお母さんと話していたら、PTAの会合が体育館であり、校長先生などがいる中で、「お父さんがお金を働いて得てきてくれたら、家族みんな『ありがとう』を言いましょ」とか、「お母さんはそういう、優しい気持ちを持ったお母さんに育てられた子は良く育つ」とか、そういう話をみんながうなずいていて。先生方も「そうです、家庭の教育はそうあるべきです」みたいな顔をしていて、すごく居心地が悪かったです。

事務局	後援の要綱から変えないといけないという感じですよ。そうすると市全体でやっていかないと。
委員	そのの、どう仕組みを入れたらいいか、考えてください。
委員	その点は、庁内推進体制の整備で扱うことではないか。担当課の調整機能の強化が重要。教育委員会に限定しない方がよい。
委員	実際の市で行う事業とか後援事業とかに関する、男女平等の視点に立ったガイドラインの作成と、それを実施していくという方向付けですかね。そういうようなものをどこかに盛り込むことによって、一つの歯止めというか。
委員長	それでは今度5ページ目のところに入ります。
委員	まず出だしなんですけど、「家庭・地域・学校における男女平等教育、学習の推進」というふうに、「地域」を入れるんだったらやっぱり「学習」という言葉を入れないと、「教育」ではちょっとまずいんじゃないかなという気はします。「学習」を入れてほしいと思います。
委員	施策で「男女平等に即した教育カリキュラムの実施」ってありますね。これは訂正案として「男女平等に即した教育の実施」にした方がいいのではないかという案を出しているのですが。この「カリキュラムの実施」と書かれている内容の中には、家庭教育とか、それから保育園での生活指導というのも入っていますので、「カリキュラム」って書くとやっぱり学校教育を連想する方が多いんじゃないかと思しますので、「カリキュラム」を取ってしまった方がもう少し広い施策というふうにとらえられるのではないかと思うんです。
委員	学校教育の中でも「カリキュラム」というのはものすごく限定された部分になっているわけなので、「カリキュラム」は取らなければなりませんけれども。
委員	「また子どもの成長に深く関わりをもつ」というところを、「子どもの人格形成に大きな影響力をもつ保護者・保育士・教員等に対し、男女平等となるよう、意識の醸成を図ります」というふうに、「大人の意識」というように書かない方がいいというふうに思った。「男女平等に即した」という、これでもいいんですが、「男女平等に基づいた教育の実施」の方がぴったりくるかなという気は、私はしました。
委員	先ほどの教育カリキュラムで「地域」というふうになった場合に、学校と保育園とかはうたってあるんですけども、学童クラブも結構家庭的な部分で。学校の場合は教科をやるということがあるんですけども、そうじゃなくて意識を育てる学童クラブが、下の子育て支援だと、子ども側だけではなくて職員の方にもあるんですけども、それはどこに入ってくるのかなというのがちょっと気になりました。そういうのも盛り込んで、一緒に入れたらどうかと一つ思います。それからもう一つ、私立の幼稚園に関してはどういう関わりができるのかと思うんですけど。
事務局	私立の保育園には、園の方針というのがありますから、強行しなさいという要請を入れるわけにもいかないという部分も結構あるんですね。そういった部分で、なるべくこんな方向でという言い方でいいのかどうかという問題が起こりますよね。
委員	「指導」はできなくても、幼稚園への「働きかけ」ということで文章に入れて。文章に入れられると思います、私立でも。
委員	「ジェンダーの視点で」というのは、「男女平等の視点で」じゃいけないんですか。「ジェンダー」自体がかなり抽象的ないろんなものを含んでいるので、よく分かんないんですよ。はっきり、別に「男女平等」にした上で問題ないかと思うんですけども。

委員	男女平等のどこに焦点をあてるかという問題が出てくるかもしれませんが、「男女平等」の方がすっきりしているのかなとか、そこら辺どうするかというところなんです。
委員長	一応ここはペンディングということで。では、6ページに関してはいかがでしょう。
委員	1の施策の内容で、「教育活動全般での男女平等教育を推進するために、監修の見直しを進めます。また、男女平等に即した教育が進められるよう、本の紹介やツールの開発を検討します」を、変更案では「学校での教育活動全般にわたって、男女平等教育を推進するために監修の見直しを進めます」と。その中にまた、「家庭・学校・保育園などで、男女平等に即した教育・保育が進められるよう、本の紹介やツールの開発を検討します」と。右側の「主な取り組み」にてきちんと対応するように、もう少し丁寧に書いた方がいいのではないか。
事務局	確かに、小学校・中学校の場合は校長先生の意志が大きい。だから先におっしゃったような体育館での講演の件は、あれは本当は校長先生がそういった意識を持っていなければなかったはずですね。
委員	進め方なんですけれど、例えば先ほどの「ジェンダーの視点で」という言葉に対して、「男女平等の視点で」という方がいいんじゃないかというふうにして、二者択一みたいな感じになったときに、「じゃあペンディング」といって、ペンディングの結果誰が決めるのかというのが、いつも気になるんですよね。だからそういうときにこれだけ委員の人いるんだから、「どっちに賛成ですか」とか聞いて。多数決っていうのもちょっと変かもしれないけど、一応聞いた方がいいかなって思うんですけど、いかがですか。
委員長	ここで決を。一応でもこういう決を採っていても、また1回、パート1が終わったときにもう1回伺うかということでもいいんじゃないかなと思いますので。
委員	私は、どうして「男女平等の視点」ではいけないのかなと聞いたかっただけであって、別に決を採る必要はない。それで進行上小さい問題だからというのであれば、別にペンディングでも差し支えない。
委員	「ジェンダー」は、確かに積極的に使いたくなるカタカナ言葉じゃないんですよね、僕の感想の中で。もし内容を変えないで言い換えられるのであれば。
委員	「ジェンダー」という言葉よりは、例えば「男女平等」という言葉で置き換えられるのであれば、そちらの方がスムーズに読めるのかなと思うんですよね。置き換えられるところは置き換えといた方がいいような気がしますね。
委員	私は、一番やっぱり教育というのは平等が進められてるとというような感覚もあるので、ここは「ジェンダーの視点」でもいいかなという気はしますね。
委員	私は特にカタカナ言葉にこだわるわけでもないんですけども、すべて「男女平等」というふうに言い換えると、「男の人は男の人で平等を追求、女は女で平等の追求」という、性別というのをそのままに、性別にかかる差別をそのままにしておいて平等というふうにいきがちなところがあるわけですね。やっぱり男は男の本分、女は女の本分みたいなものがあって、その中でというような意味合いが非常にぬぐいがたい方にとっては、「男女平等」と言ったときに一般的に不平等の中身が「性別に関わって不平等を生み出す」というところが見えにくい部分があるかなと思うんです。
委員	なるべく、いわゆる市民とかお読みになったときに、何か言い換えられるのに無理無理使ってるという印象を与えないようにするのは、大事なことだというふうに思いますけれども。
委員	私が6ページについてちょっと意見を出したのは、男女混合名簿をつくるぞ

委員	<p>ということで、小学校の部門は結構進んでいるのですが、中学校は1校もないはずなんで、その辺、中学校への働きかけ、括弧で入れるかどうか、その辺を明らかにできるような文章を補充した方がいいかなということ、あとは3番目の「固定的な性別役割にとらわれない進路指導の推進」ってすごく読みにくいので、「男女平等観に立った進路指導の推進」でいいと思いました。あと、男女平等の視点でいうと、幼稚園が結構問題を抱えているというのは現実だと思うので、何かの形でどこかに「幼稚園への働きかけ」を入れてほしいというふうに思いました。</p> <p>男女混合名簿については、中学校ではやりにくいというようなことも聞いていますが、もう小学校はかなり進んできたところで、中学でもやっていただきたいという要望は強いと思います。ですので、例えば市立小・中学校とか、そういうのを少し入れていただけたらいいんじゃないかなというふうに思いました。今、青少年の性体験率が上がっているんな問題起こっているときに、性教育というのを学校でやっぱりやっていくという方向性は出していきたいなというふうに思いますので、ここで書いてもらうのが順当かなというふうに思いました。</p>
委員長	<p>「固定的な性別役割にとらわれない進路指導の推進」なんですけれども、私は逆に「男女平等」というのですと、進学相談で高等教育に進むという場合に、「女性だから短大・専門でいい」とかって、いまだにそういう進路指導をする高校の先生っていらっしゃるんですね。やっぱりここは「固定的な性別役割に」というふうにはっきり打ち出した方がいいんじゃないかなと、私は経験上そういうふうに感じています。それと、カリキュラムの問題で、西東京市はないと思うんですが、小学校から家庭科も実は男女共修していない学校というのも実際にはあるようで、やっぱりそこは何かきちんと調べる必要がある部分もあるのかなという気がします。小・中・高と男女共修というのは条約のところには打ち出されていますので、ちょっと確認した方がいいのかなという気もしています。</p>
委員	<p>「本の紹介やツールの開発」ですが、この「ツール」というのは啓蒙のビデオとかそういうことですか。「ツール」って何なのかと。ちょっと具体的にイメージできないですね。</p>
委員	<p>学校教育のところは、性教育の項目を入れるべきだと思う。</p>
委員	<p>保谷市の行動計画の性教育の欄は、非常に細かく書かれています。西東京市の「性教育の手引き」を見たい。</p>
委員長	<p>それでは7ページに進めさせていただきます。</p>
委員	<p>2段目のところが、男性にとっての家庭生活・育児参加について書いてあるんですが、育児というのは大変でもあり、おもしろくも喜びでもあるというような面があると思うので、ただちょっと書き加えて、男性にとっての幸せだけでなく、子育てがやっぱり両親が関わることが望ましいというふうに書いた方がいいんじゃないかなというふうに思います。</p> <p>それから、「四六時中育児や介護に携わることによって」というのは取るというふうに提案しました。</p>
委員	<p>まず2番目の方で、「男性にとっての幸せのため」とか、「男性自身のため」というのですが、何が幸せかっていうのは各人の主観によるものであって、明らかにこれ、「幸せのために」というのは押しつけがましいことだと</p>

	<p>思われますので、「男性自身のための」ぐらいにしておいた方がいいんじゃないかと思われます。あと1段目の方では、赤石委員がおっしゃったように「四六時中育児や介護に携わることによって」というのは、もうその前に「女性だけが育児や介護を行い、周囲の支援が得られない状況にある」というので、すんなりつながると思いますので、「四六時中」のところは削除した方がいいと思います。その最後のところで「悪影響を及ぼすことも想定されます」は、「考えられます」の方がまだましかなと。</p>
委員長	「ありえます」とか。
委員	「少なくありません」とかですか。
委員	やっぱり1段目の最後のところで「男性や社会みなで支えていくものに変えていく」。あくまでこれ、先入観から女性だけがやっているっていうふうにとらえられるんですね。確かに女性の方が比率としては多いんでしょうけれども。家族全体、女性ももちろん含まれているということで、「地域社会」でもいいです。そういうように変えた方がいいかと思います。
委員	「男性や社会」という部分ですけども、例えば「家族にとどまらず社会みなで」とか、そんなような表現にしたらどうかなと。
委員	私は、この文の流れはすごく分かりにくいので、やっぱり「家庭生活を豊かにする男女平等」を考える前に、「男は仕事、女は家庭」という、そういう意識の中で、女性だけが育児・介護に負担がかかっているというようなところから変えるために、やっぱり男性も家庭生活に参加することによって、家庭生活が豊かになっていくのではないかというような文体の流れの方が分かりやすいかなという気がします。
委員	具体的に書いていただいて、次の時に検討したい。
委員長	それでは8ページに進みます。
委員	「男性が家事や育児に関する技術力を身に付ける」という、「技術力」という言葉が、ちょっと「何だろう」と。それともう一点、この施策というところで「技術取得への支援」というのと「意識改革への支援」とありますけれども、これ順番としては「意識改革」がまずあってというふう置き換えた方がいいんじゃないのか。私の知っている範囲では、ほとんどの男性がほとんどの家事ができます。やる気の問題だけなんです。結局のところは、ですからこのところで伝えたいのは、まず「意識改革」があって、その後に（技術力が）ない人は身につけなさいという順番にした方がいいと思ったんですけども。
委員	「家庭における男性参画の促進」で2つ施策が出ているんですけども、「男性の過酷な労働の是正」という施策を一つ加えたい。この2つの施策だけではかなり現実と懸け離れている感じがするんですね。現実として男性に過酷な労働というのがなくなる限り、こんなことをやったってできないんですよ。意識を改革する前に、現実の労働のところを変えなきゃいけないと。
委員	でも過酷な労働とか長い労働時間というのは、働いている女性も同じ部分で、例えば共働きしていて、「夫よりも私は早く出かけて遅く帰ってきます。でも家事一切私がやっています」という意見はものすごく、今の若い世代でも多いのに、男性は労働時間が長いから家事しないというのは、言えないんじゃないかなというふうに感じています。
委員	ただ単に家事の技術とか、介護の技術とか、親になることの技術だけの支援となってしまうと、ちょっと目指しているところが違うと思うんですね。家庭に目をどのぐらい向けるか。技術講座と意識講座を分けないほうがよい。
委員	なかなか時間が取れない男性でも、少しは子育てに関われるような、といった言葉が施策の内容に入ると、より身近な感じがするのではないかと。

委員	家庭における男性参画の促進ということで、一つ領域を立てたいということもある。男女ともに家庭責任を果たすような、行動計画をそのあたりまでしておくのか、男性だけということで出すかどうかということ。
委員	家庭生活という場合には、やはり男性と女性が協力するという視点が、ちょっと見えにくい。もう一つは、施策のところ、もう少しどの部分を大事にしていくかというところを入れていただいた方がいい。
委員	この辺も何となく退職された方が対象になっているような感じがするので、もっと若い年齢層への協力的な部分を盛り込んでいただいた方が。
委員	やはりこの不平等感を持っているのは女性の方が多いと思うんですね。流れとしても、家事や育児とかはどうしても女性の肩にかかってきてしまう、残念ながら。だからそういう意味で、それを是正するということで、男性にもできる範囲でいいから意識を持ってもらう、というのをどこかに盛り込んで。
委員	「男性向け介護講座」とか、「男性向け家事講座」というのがあるんですけども、これ普通の講座とどういう違いがあるのかということと、一緒に夫婦で講座を受けることができたほうがいいんじゃないか。
委員	男性の家庭参画の促進には、女性の意識改革も必要なのでは。いくら、いいスキルというか、テクニックを持っていても、やっぱりそれを使おうという意識が変わらないと。むしろ例えばスキルを勉強する際に、その前のイントロダクションとして、意識を変えるというような講座があればいいんじゃないかなと思うのですよね。
委員	例えば男性向け介護講座は、技術的に介護をどうするかという問題を考えてしまうかと思うんですけども、実は精神的というか意識的な部分もすごく必要かなと。
委員長	心の中の壁をどう乗り越えられるのか。男性だけの場の方が参加しやすい人もいる。カップルで参加するものと、男性だけのものなど多様になるとよいのでは。もう一つ、地域というのもここに入れた方がいいのかなという気もしました。
委員	それは9番に入っています。
委員	男性というのに焦点がある程度当たっているというのはいいと思うんですが、やっぱり男女が協力するという視点も入っていた方が望ましいというふうに私も思うんですね。
委員	共同責任としながら、男性の参画が今少ないと。だからそこをやっぱり重点的に支援したり啓発したりすることが必要だということで、もうちょっと幅広くした方がよりいろんなものが書き込めるかなという気はしたんですけどね。
委員長	スペースの方はもう少し男女で共に云々というのを打ち出して、具体的な施策の中では男性というのでも打ち出すというような。
委員	施策の内容のところ、男女の協力みたいなことが入るといいのでは。
委員	施策が2つに分かれているのを1つだけにしてしまったほうがいいのかもしれません。あとテーマもやっぱり女性と男性が一緒なんだから、「家庭における男女共同参画の促進」でいいんじゃないかと思いますけどね。
委員長	3番のテーマを「家庭における男女共同参画の促進」というふうに打ち出すということでよろしいでしょうか。施策の方もこういうふうに分断しないで1つにまとめて、取り組みのところもいろいろ具体的に変わっていくということでもよろしいでしょうか。
委員	「子育て支援サービスの充実」ということで、「認証保育所への」というふうになっているのですが、認証保育所だけじゃなくて、まだ無認可というか、

委員	<p>市が補助をしてないところもあるんですね。だから「等」というふうになんとなく幅を広げないとまずいというふうに思いました。あとは「保育支援の拡充」のところに、障害児保育を入れた方がいいかなという気がしました。11ページの「施策の内容」のところで、「子どもたちを見守りながら指導していく」というのは、これは「応援」などの方が私は好きという、好みの問題なんです。それから「主な取り組み」の下から2番目、「児童手当、児童育成手当の充実」とありますが、児童手当は一般的にすべての児童が対象で、年齢がまだ制限されています。児童育成手当は都の手当で、一人親対象。だからこれを入れるなら児童扶養手当、国の母子家庭等の対象を入れた方がいいと思います。</p>
委員	<p>これ「充実」だと適切じゃないんですね。国や都が支給するものですから、市としては何ともできないじゃないですか。</p>
委員	<p>だからちょっと、全部独自には決められない、運用ぐらいしか決められないので、「充実の要望」でしょうか。 あと病児保育は検討より実施の方向にできないか。</p>
委員	<p>全体的に見ると、高齢者について書くところがここしかないんですね。介護も必要ですけど、高齢者自身が充実した生活をするためのものをやっぱり入れるとしたら、介護への社会的支援でいいのかなという気はする。</p>
委員	<p>独り暮らしの高齢者の課題だとか、かなり出ていたと思うんですけど、後ろの方の人権の問題、人権を守るというところでも、独り暮らしの高齢者の支援などが出てくるのかと思ったら、それも入っていない。</p>
委員長	<p>次回もご参加いただける方は、6時開始ということでご協力をいただきたいと思います。</p>